

**決算説明資料
(2014年度)**

2015年 5月 29日

 **株式会社 重松製作所**

2014年度 決算概要

2014年度の総括

●当年度のわが国の経済は、消費税率引き上げ後の反動等による影響で個人消費に伸び悩みが見られたものの、円安や株高、原油価格下落等を背景に企業業績の改善が進み、設備投資も増加するなど、景気は緩やかな回復傾向で推移しました。その一方で、米国の政策金利引上げの動向や新興国経済の減速懸念など、景気の先行きは依然として不透明感が拭えない状況が続いております。

●このような経済環境の中、期初から原子力発電所向け呼吸用保護具の受注が好調だったことに加え、民間製造業からの受注も前年度を上回ったことから、年度を通した呼吸用保護具全般の受注は、製品を中心に前年度比で堅調な水準を維持しました。この結果、売上高は100億34百万円と前年度比10.0%の増収となりました。

●一方、利益面では、売上高増加により製品原価・商品原価とも増加しましたが、製品売上高が大きく増加したこと及び生産効率の向上等により、製品原価率は前年度比で1.8ポイント改善しました。この結果、売上総利益は32億13百万円と前年度比12.9%の増益となりました。また、販売費及び一般管理費は、積極的な拡販活動や新製品開発等による人件費・諸経費増が避けられず、前年度比6.7%増の28億21百万円となりました。

●以上のことから、営業利益は3億92百万円（前年度比95.0%増）、経常利益は3億49百万円（前年度比89.6%増）、当期純利益は2億27百万円（前年度比182.2%増）の増収増益決算となりました。

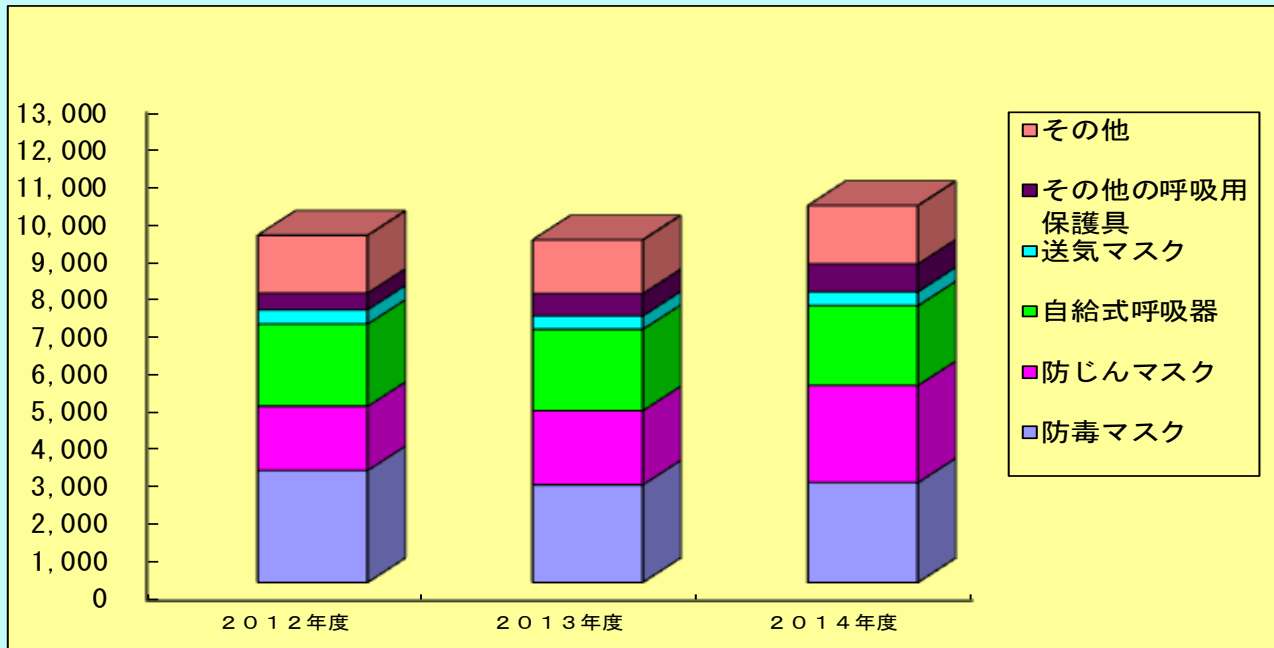
2014年度 損益の状況

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	2012年度	2013年度	2014年度		
			実績	前々期比増減	前期比増減
売上高	9,241.0	9,119.7	10,034.2	793.1	914.5
製品製造原価	4,053.4	3,908.7	4,359.2	305.8	450.5
商品原価	2,445.0	2,366.4	2,462.4	17.4	96.0
売上原価	6,498.4	6,275.1	6,821.6	323.2	546.5
売上総利益	2,742.6	2,844.6	3,212.5	469.9	368.0
販売費及び一般管理費	2,569.7	2,643.6	2,820.7	250.9	177.1
営業利益	172.9	201.0	391.9	219.0	190.9
営業外収益	76.2	76.7	49.0	△ 27.2	△ 27.7
営業外費用	90.4	93.9	92.3	1.9	△ 1.6
経常利益	158.7	183.8	348.6	189.9	164.8
特別利益	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別損失	20.4	15.7	14.5	△ 5.9	△ 1.2
税引前当期純利益	138.3	168.1	334.1	195.8	166.0
法人税等	31.9	11.1	34.2	28.8	23.1
法人税等調整額	52.8	76.6	72.9	20.2	△ 3.7
当期純利益	53.6	80.4	227.0	173.3	146.5

セグメント別売上高推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

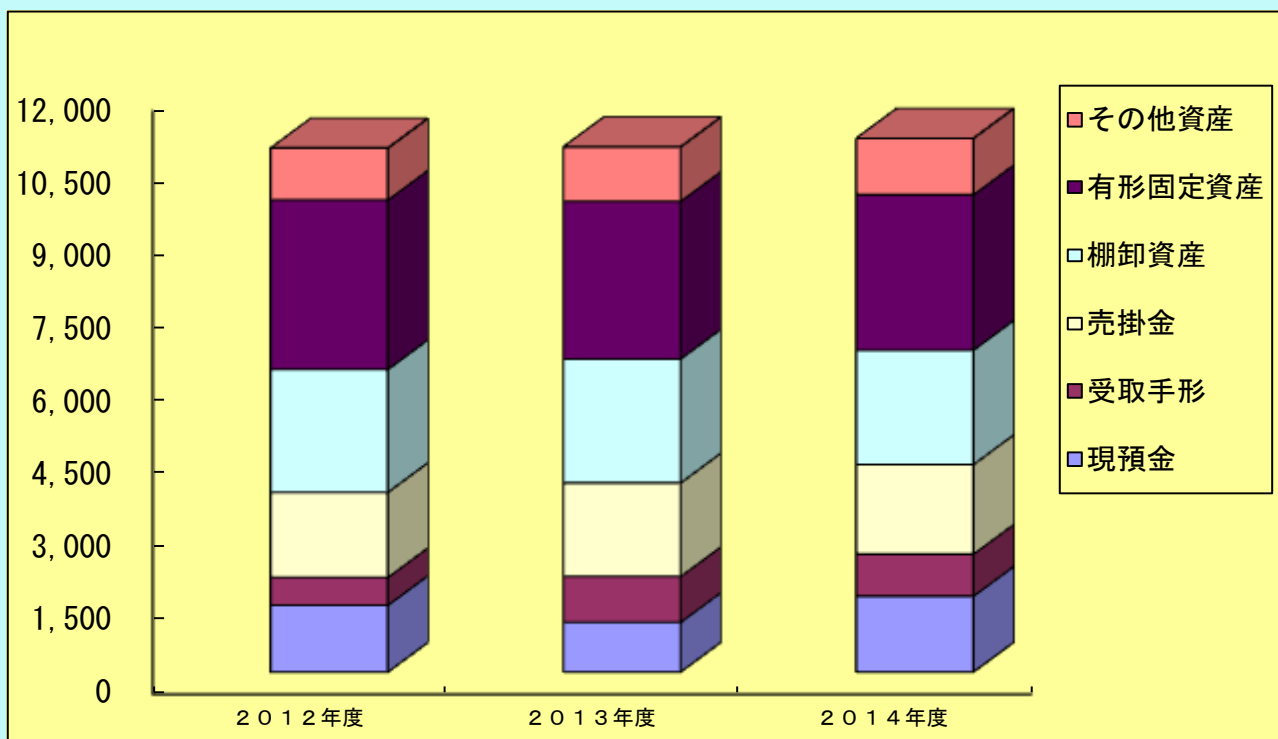
	2012年度	2013年度	2014年度
防毒マスク	2,981.0	2,598.8	2,658.0
防じんマスク	1,708.8	1,974.4	2,587.5
自給式呼吸器	2,190.9	2,165.8	2,123.9
送気マスク	380.4	358.0	372.8
その他の呼吸用保護具	444.4	595.3	739.9
その他	1,535.4	1,427.4	1,552.1
合計	9,241.0	9,119.7	10,034.2

当年度の特徴

- ① 当年度のわが国の経済は、企業業績の改善等を背景に、緩やかな景気回復傾向にある一方で、米国の政策金利上げ動向や新興国経済の減速懸念などもあり、景気は依然として先行き不透明な状況で推移しました。
- ② このような環境の中、原子力発電所向け需要や民間製造業からの受注が、堅調だったことから、売上高は、前年度比9億14百万円の増収となりました。
- ③ 主要品目別では、防毒マスクが前年度比59百万円の増加、防じんマスクは原子力発電所向け製品の寄与もあり、6億13百万円の大幅な増加となりました。
- ④ 前年度比で、自給式呼吸器は42百万円減少、送気マスクは微増となりました。一方、上記以外の主要品目は合計で2億69百万円の増加となりました。

主要資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2012年度	2013年度	2014年度
現預金	1,372.2	1,022.2	1,558.4
受取手形	573.6	941.0	864.3
売掛金	1,749.5	1,925.5	1,842.2
棚卸資産	2,525.8	2,546.8	2,352.2
有形固定資産	3,482.8	3,241.7	3,193.9
その他資産	1,067.7	1,119.2	1,159.6
合計	10,771.6	10,796.4	10,970.7

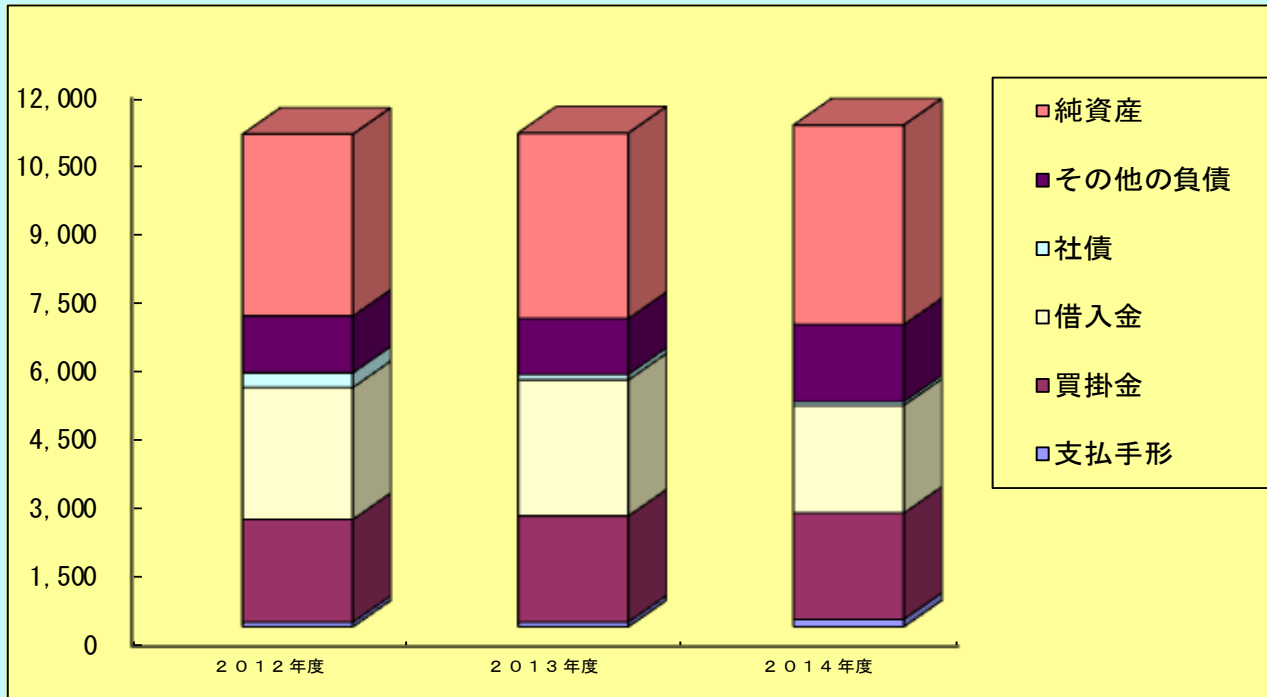
注：本表における受取手形には、債権売却手形（資金化分）は、簿外のため含まれていません。

当年度の特徴

- ① 現預金は、第4四半期の売上増を主因として、前年度末比で5億36百万円増加しました。
- ② 売上債権（受取手形＋売掛金）残高は、割引手形による期末の短期借入金返済額を増やしたこともあり、1億60百万円の減少となりました。
- ③ 棚卸資産は、製品・商品及び材料が減少、仕掛品は増加し、全体では1億95百万円の減少となりました。
- ④ 有形固定資産残高は、減価償却の進捗等により48百万円減少しました。
- ⑤ 株価の回復を受け、投資有価証券は1億30百万円以上増加し、長期性預金が1億円減少した結果、その他資産全体では40百万円の増加となりました。

主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

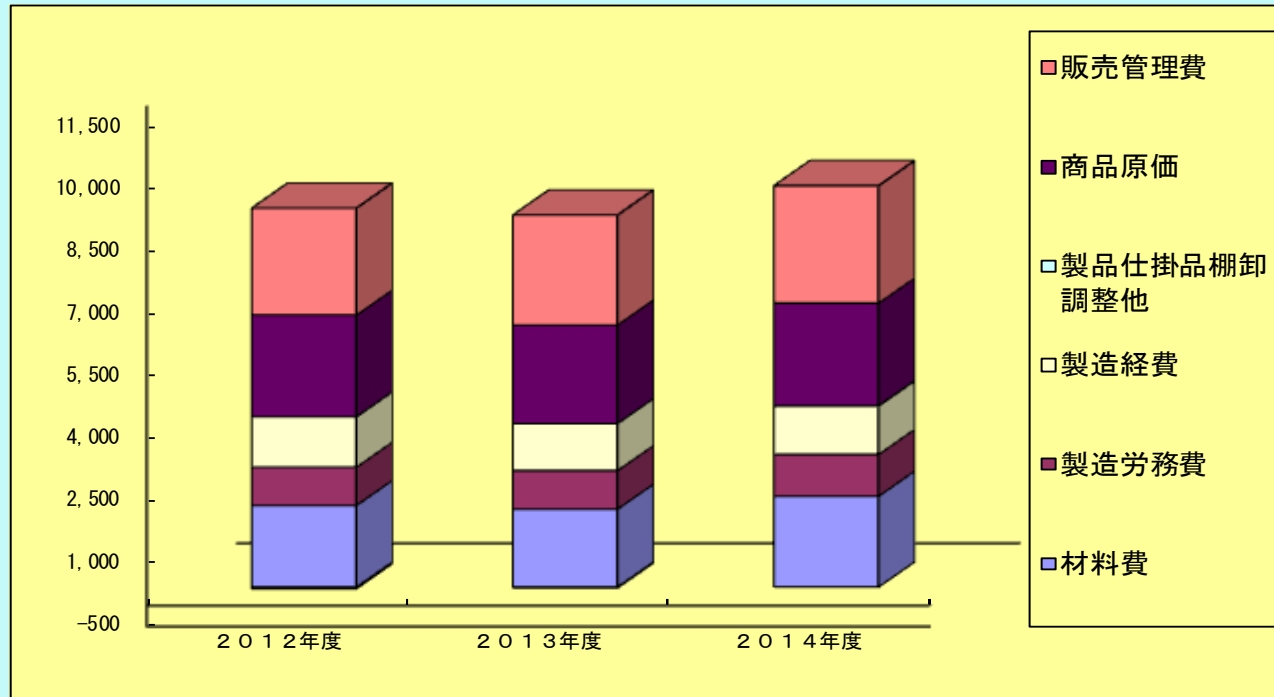
	2012年度	2013年度	2014年度
支払手形	102.2	103.5	163.9
買掛金	2,247.9	2,319.7	2,322.5
借入金	2,884.8	2,976.5	2,355.8
社債	318.3	120.0	80.0
その他の負債	1,244.6	1,222.1	1,687.5
純資産	3,973.9	4,054.5	4,361.0
合計	10,771.6	10,796.4	10,970.7

当年度の特徴

- ① 支払債務（支払手形＋買掛金）残高は、第4四半期の売上増に伴い、前年度末比では63百万円増加しました。
- ② 借入金及び社債の残高は、期中に年度資金を調達しましたが、約定返済及び期末の短期借入金返済により、前年度末比では6億61百万円減少しました。
- ③ その他の負債は、繰延税金負債、未払消費税、賞与引当金、未払費用等が増加した結果、全体では前年度末比で4億65百万円増加しました。
- ④ 純資産の残高は、前年度末比で3億7百万円増加の43億61百万円となり、自己資本比率は39.8%となりました。

売上原価・販売管理費推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

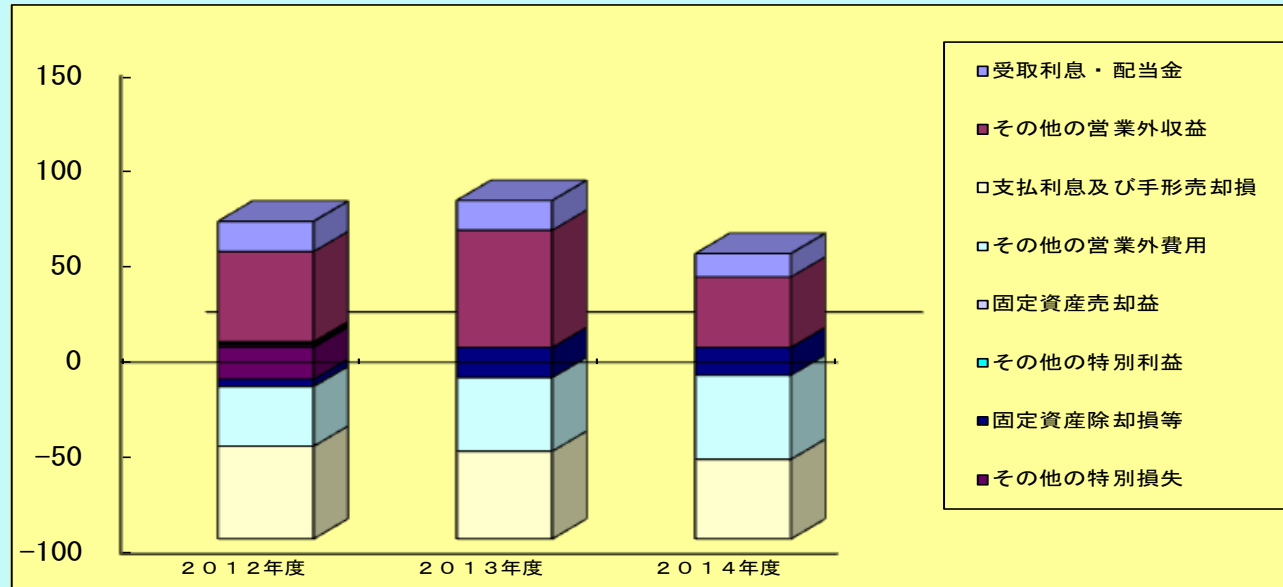
	2012年度	2013年度	2014年度
材料費	1,960.1	1,870.6	2,182.6
製造労務費	919.3	925.7	1,003.2
製造経費	1,209.7	1,131.1	1,163.8
製品仕掛品棚卸調整他	△ 35.6	△ 18.7	9.5
商品原価	2,445.0	2,366.4	2,462.4
販売管理費	2,569.7	2,643.6	2,820.7
合計	9,068.2	8,918.7	9,642.3

当年度の特徴

- ① 製造部門は、製品売上高の大幅な増加や生産効率の向上に注力したこともあり、製品原価率は前年度比で1.8ポイント改善しました。
 - ・材料費は、前年度比で3億12百万円増と、製品売上高の大幅増加を反映した水準となりました。
 - ・製造労務費は、前年度比で77百万円の増加となりました。
 - ・製造経費は、新製品関連の金型の減価償却が一段落したこと等もあり、前年度比では33百万円の増加に止まりました。
- ② 商品原価は、前年度比では96百万円の増加となりましたが、対売上高比率では、ほぼ12年度以前の水準を維持しております。
- ③ 販売費及び一般管理費は、積極的な拡販活動や新製品開発等による人件費・諸経費増が避けられず、前年度比で1億77百万円の増加となりました。

営業外・特別損益推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

		2012年度	2013年度	2014年度
営業外損益	受取利息・配当金	29.3	15.5	12.2
	その他の営業外収益	47.0	61.2	36.8
	支払利息及び手形売却損	△ 59.3	△ 55.4	△ 48.4
	その他の営業外費用	△ 31.2	△ 38.5	△ 43.9
	営業外損益合計	△ 14.2	△ 17.2	△ 43.3
特別損益	固定資産売却益	0.0	0.0	0.0
	その他の特別利益	0.0	0.0	0.0
	固定資産除却損	△ 3.9	△ 15.7	△ 14.5
	その他の特別損失	△ 16.5	0.0	0.0
	特別損益合計	△ 20.4	△ 15.7	△ 14.5

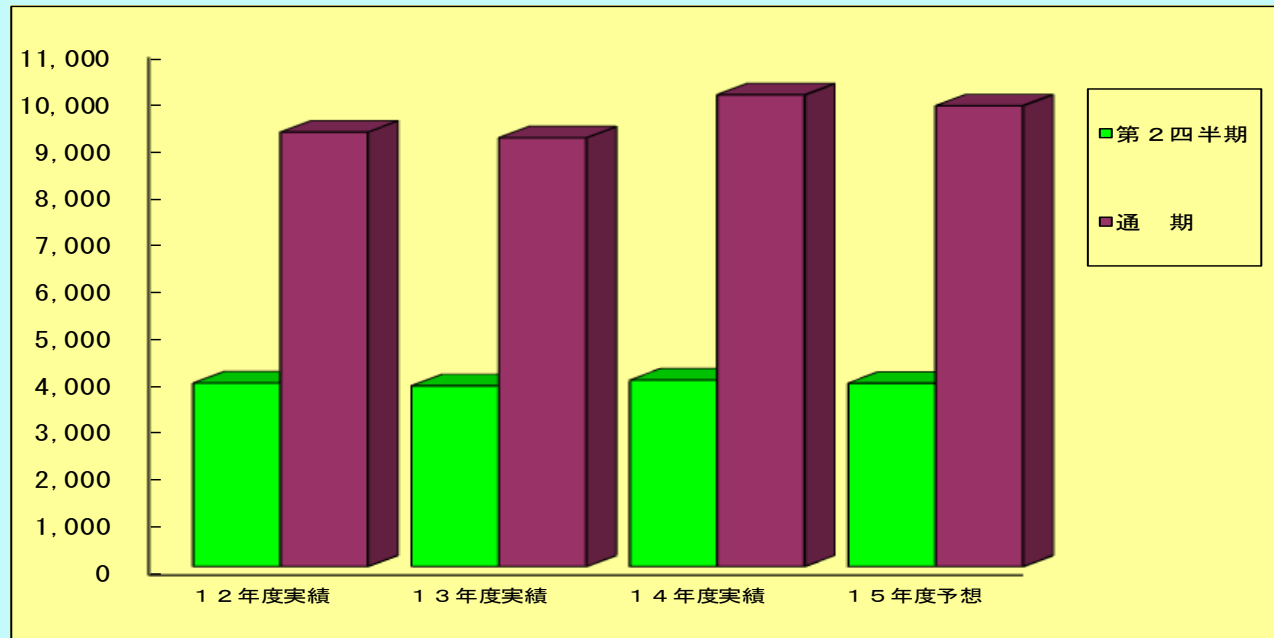
当年度の特徴

- ① 受取利息・受取配当金、その他の営業外収益は、いずれも前年度比で減少となりました。
- ② 前年度と同様に、資金調達コストの削減を図ったことから、支払利息及び手形売却損の残高は、前年度比で減少しました。
- ③ 前年度に引き続き当年度も、固定資産売却益はありません。
- ④ 特別損失については、固定資産除却損のみで、その他の特別損失はありません。

2015年度 業績予想

2015年度の売上予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点未満四捨五入

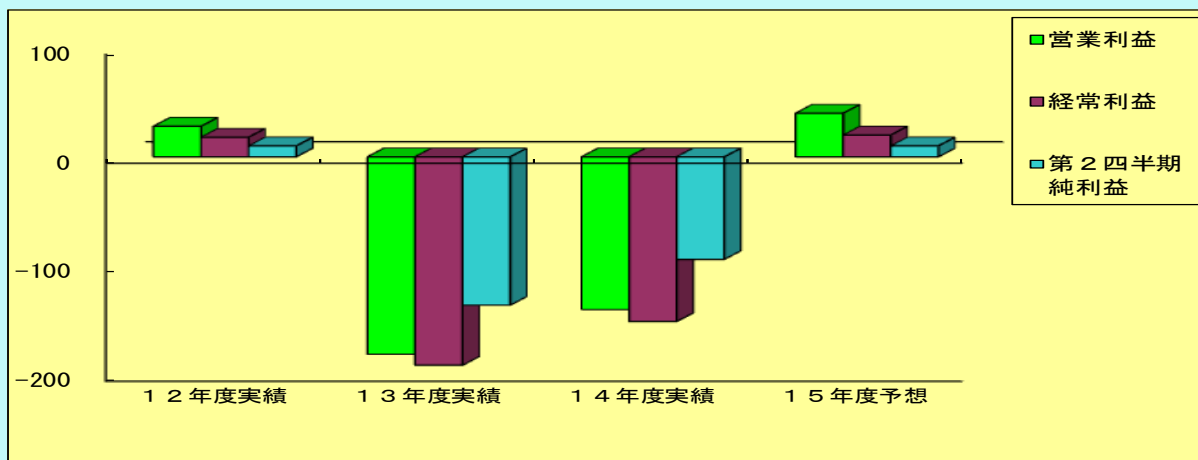
	12年度実績	13年度実績	14年度実績	15年度予想
第2四半期	3,905	3,847	3,967	3,900
通期	9,241	9,120	10,034	9,800

予想のポイント

2015年度におけるわが国の経済は、各種の経済対策等を背景に、着実な景気回復が期待されますが、その一方で、米国の政策金利上げ動向や新興国経済の減速懸念等の景気下振れリスクもあり、景気の先行きは不透明な状況で推移していくものと思われま。

このような経済環境の中、呼吸用保護具の需要は、原子力発電所関連に加え、環境問題、地震や火山噴火等の天災、老朽化した社会インフラの改修等、全体としては緩やかに拡大していくものと思われま。このような中、引き続き新製品開発力の強化を図るとともに、積極的できめ細かい販売活動に注力することで、2015年度の売上高は、前年度比で微減の98億円を見込んでおります。

2015年度 第2四半期の利益予想 (単位：百万円)



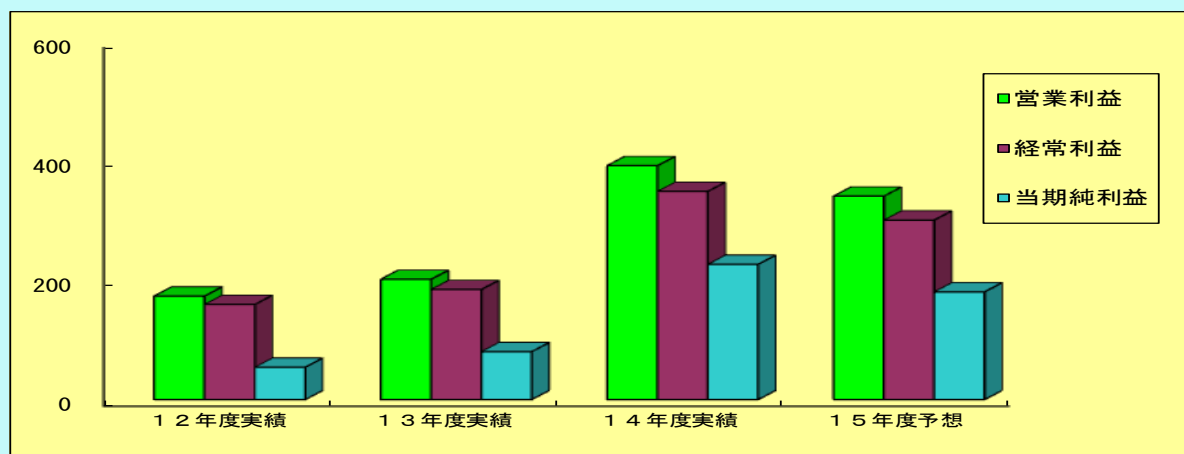
予想のポイント

2015年度第2四半期は、前第2四半期並みの売上高を、利益面は、社内全部門での業務の効率化を進め人件費・諸経費削減を図ることで、営業利益、経常利益、第2四半期純利益とも黒字を見込んでおります。

単位：百万円、小数点未満四捨五入

	12年度実績	13年度実績	14年度実績	15年度予想
営業利益	28	△181	△140	40
経常利益	18	△191	△152	20
第2四半期純利益	10	△136	△95	10

2015年度 通期の利益予想 (単位：百万円)



2015年度通期は、引き続き景気の先行きに不透明さはあるものの、これまで以上に原子力発電所関連の受注や積極的な新製品の拡販等に注力することで、相応の水準の営業利益、経常利益、当期純利益を見込んでおります。

単位：百万円、小数点未満四捨五入

	12年度実績	13年度実績	14年度実績	15年度予想
営業利益	173	201	392	340
経常利益	159	184	349	300
当期純利益	54	80	227	180